

# 精神の一つのあり方について

——ホーフマンスタール〈気むずかしい男〉論——

小松崎 直

1921年に公にされた「気むずかしい男」(Der Schwierige)はホーフマンスタールの喜劇の中で唯一詩人の生きた時代のウィーンを舞台とする。自らの生と時間、空間の隔たりのない舞台上に展開されるものの中で詩人の意図したものは何であったのか。

既に冒頭の登場人物の紹介のト書きからそのユニークさは見出されるだろう。

## PERSONEN

## 人 物

HANS KARL BÜHL	ハンス・カール・ビュール
CRESCENCE, seine Schwester	クレサンス 彼の姉
STANI, ihr Sohn	シュターニ 彼女の息子
HELENE ALTENWYL	ヘレーネ・アルテンヴェール
ALTENWYL	アルテンヴェール
ANTOINETTE HECHINGEN	アントワネット・ヘヒンゲン
HECHINGEN	ヘヒンゲン
NEUHOFF	ノイホフ
EDINE	エディーネ
NANNI	ナニ
HUBERTA	フーベルタ
AGATHE, Kammerjungfer	アガーテ 侍女
NEUGEBAUER, Sekretär	ノイゲバウアー 秘書
LUKAS, erster Diener bei Hans Karl	ルーカス
	ハンス・カールの侍従頭
VINZENZ, ein neuer Diener	ヴァインツェンツ
	新入りの侍従

EIN BERÜHMTER MANN

有名な男

Bühlsche und Altenwylsche Diener

ビュール家とアルテンヴェール家の侍従

この登場人物の紹介の仕方を分類すると、

姓・名ともに記されている人物

ハンス・カール・ビュール

ヘレーネ・アルテンヴェール

アントワネット・ヘヒンゲン

名のみ記されている人物

クレサンス

シュターニ

エディーネ

ナニ

フーベルタ

アガーテ

姓のみ記されている人物

アルテンヴェール

ヘヒンゲン

ノイホフ

ノイゲバウアー

ルーカス

ヴィンツェンツ

姓・名ともに記されていない人物

有名な男

ビュール家とアルテンヴェール家の侍従

余りに過大なものをこの人物紹介の仕方に見出すことの早計さには充分留意しつつも、数人の人物が持つ爵位が全く記されていないことと共に看過されてよいこととは思えない。以下3幕47場から成るドラマを特に筋を追うことによってではなく、諸人物を会話を通して分析することによって、劇作中の絶品<sup>(1)</sup>ともされるものの核心に少しでも迫ってみたい。

先ずとり上げたいのは人物紹介にも入っていないし、また舞台にも登

場しないフルラーニという芸人である。この人物が最初に話題にのぼるのは第1幕第17場で夜会に行くことにしたハンス・カールによってである。

HANS KARL

—vorher geh ich für eine Stunde in den Zirkus, da haben sie jetzt einen Clown—eine Art von dummem August—

CRESCENCE

Der Furlani, über den ist die Nanni ganz verrückt. Ich hab gar keinen Sinn für diese Späße.

HANS KARL

Ich find ihn delizios. Mich unterhält er viel mehr als die gescheiteste Konversation von Gott weiß wem. Ich freu mich rasend.<sup>2)</sup>

ハンス・カール

—その前に1時間程サーカスに行ってきます。今あそこに道化が出ているのです。——一種の阿呆役です。——

クレサンス

フルラーニね。ナニがすっかり夢中になっているわ。私はこういうおふざけには全然センスがないのだけれど。

ハンス・カール

私はこの男はすばらしいと思っています。どこかの誰かとのどんな気のきいた会話よりも彼はずっと私を楽しませてくれるのです。私は気が狂う位楽しくなってしまうのです。

ハンス・カールのフルラーニに対するこの贅辞は更に第2幕第1場に於いて徹底的に展開されるが、それはそれと意図せずに彼自身を、或いは彼自身のあるべき像を正確に描写しているのである。この第2幕第1場には多くの人物が登場する。アルテンヴェール、ハンス・カール、クレサンス、ヘレーネ、ノイホフ。問題はハンス・カールとヘレーネとの間に交わされる会話であって、他のすべての人物の間に交わされるものは全く別の次元のものであり、各人物の本質を解明するのに役立つも

このドラマの意図するものとの差異を鮮明にすること以上の意味をもたない。二人の会話は次のようにはじまる。

HELENE

*zu Hans Karl*

Sie haben ihn so gern, den Furlani?

HANS KARL

Für mich ist ein solcher Mensch eine wahre Rekreation.<sup>3)</sup>

ヘレーネ

ハンス・カールに

あなたはそんなにお好きなのですか、あのフルラーニが？

ハンス・カール

私にはああいう人間は本当の骨休めです。

しかしこの骨休めがフルラーニの巧みな、意図的な芸によるものではないことがすぐに述べられる。

HELENE

Macht er so geschickte Tricks?

HANS KARL

Er macht gar keine Tricks. Er ist doch der dumme August!

HELENE

Also ein Wurstel?

HANS KARL

Nein, das wäre ja outriert! Er outriert nie, er karikiert auch nie. Er spielt seine Rolle.<sup>4)</sup>

ヘレーネ

彼は仕掛けがそんなに上手なの？

ハンス・カール

仕掛けなんて用いませんよ。彼は愚かなアウグストなのですよ。

ヘレーネ

では道化なの？

ハンス・カール

いいえ、そういうと誇張になります。彼は決して誇張しないのです。風刺もしないのです。彼は自分の役割を演ずるのです。

つまりフルラーニの芸は一切が笑いを誘う意図を持って行なわれるものではないということである。只ひたすら彼は自らの役割りを忠実に演技するだけなのである。更にハンス・カールは続ける。

er ist der, der alle begreifen, der allen helfen möchte und dabei alles in die größte Konfusion bringt. Er macht die dümmsten Lazzi, die Galerie kugelt sich vor Lachen, und dabei behält er eine élégance, eine Diskretion, man merkt daß er sich selbst und alles, was auf der Welt ist, respektiert. Er bringt alles durcheinander, wie Kraut und Rüben; wo er hinget, geht alles drunter und drüber, und dabei möchte man rufen: » Er hat ja recht! «<sup>5)</sup>

彼はすべての人を理解したいと思い、すべての人を助けたいと思っているのにすべてをこの上ない混乱に陥れてしまう男なのです。彼はこの上なくおどけた動作をして、客席は笑いころげますが、それでも彼は上品さを、つまり慎重さを保っています。彼が自分自身とこの世にあるものすべてに尊敬を捧げていることがわかるのです。彼はすべてをごちゃごちゃにしまいます。彼が行くところ、到るところで大混乱が生じます。それでも、「彼が正しいのだ！」と叫びたくなるのです。

彼はおどけた動作をして客席を笑いころげさせるがそれは意図を以て行ったものではないのだから彼は上品さ、慎重さを保ちつづけることが出来るのである。それとても彼が意図したものでは勿論ないのである。そして更に、

HANS KARL

*zu Helene, in seiner Konversation fortfahrend*

Sehen Sie, Helen, alle diese Sachen sind ja schwer: die Tricks von den Equilibristen und Jongleuren und alles—zu allem gehört ja ein fabelhaft angespannter Wille und direkt Geist. Ich glaub, mehr Geist, als zu den meisten Konversationen.—<sup>6)</sup>

ハンス・カール

ヘレーネに、会話を続けながら

いいですか、ヘレン、こういう事はすべてむずかしいのです。軽業師や曲芸師の仕掛けなどはすべて——途方もなく緊張した意志とまさに精神そのものを必要とするのです。大抵の会話に対するよりも多くの精神を必要とすると思います。

ここではハンス・カールがフルラーニだけではなく、軽業師や曲芸師にも精神の存在を認めており、更に、彼等がそれを多く所有していること、その精神が同時に進行するエディーネがアルテンヴェールとの会話で連発する精神と如何に隔たっているかはこの喜劇全体を通じて散見される同一語に対する二つの意味の受取り方から生ずる喜劇的な意味の一つとして留意さるべきであろう。

再びハンス・カールはフルラーニに対する賛辞を続ける。

HANS KARL

Aber das, was der Furlani macht, ist noch um eine ganze Stufe höher, als was alle andern tun. Alle andern lassen sich von einer Absicht leiten und schauen nicht rechts und nicht links, ja, sie atmen kaum, bis sie ihre Absicht erreicht haben: darin besteht eben ihr Trick. Er aber tut scheinbar nichts mit Absicht—<sup>7)</sup>

ハンス・カール

けれども、フルラーニがすることは他の芸人がやることよりも明らかに一段階上です。他の芸人は意図に支配されて、右も左も見余

裕がありません。意図を達成するまで殆ど息もつけないのです。そこにこそ彼等の仕掛けがあるのです。しかし彼は意図をもって何かをするということがないようなのです。

フルラーニのこの無意図性は落語家古今亭志ん生（1890—1973）が60歳を越えてからしばしば取り上げた名人もの（例えば中村仲蔵）の枕として語った名人の芸の話に近いだろう。志ん生がそこで具体的にとり上げた例は相撲の栃錦だけだが、志ん生は栃錦の相撲は力がとらせるのではなく、芸がとらせているのだという。芸の力がそこへ栃錦をつれてゆくのだというのである。ハンス・カールはフルラーニが花瓶を落とすときのことについても以下のように述べる。

Aber wie er ihn hinunterwirft, darin liegt's! Er wirft ihn hinunter aus purer Begeisterung und Seligkeit darüber, daß er ihn so schön balancieren kann! Er glaubt, wenn mans ganz schön machen tät, müßts von selber gehen.<sup>8)</sup>

しかし何という落とし方でしょう、そこが問題なのですよ！ 彼が花瓶を落とすのは鼻の上にそれをのせてこんなにうまくバランスをとってられることに純粹に感激し、幸福と感じているからなのです！ こんなにうまく出来るなら、事はおのずと運ぶに違いないと思っっているのです。

当然1895年の詩 „大魔術の夢“（Ein Traum von großer Magie）が想起されねばならない。

Doch die Gebärde

Des Magiers—des Ersten, Großen—war  
Auf einmal zwischen mir und einer Wand:  
Sein stolzes Nicken, königliches Haar.

Und hinter ihm nicht Mauer: es entstand

Ein weiter Prunk von Abgrund, dunklem Meer  
Und grünen Matten hinter seiner Hand.

Er bückte sich und zog das Tiefe her.  
Er bückte sich, und seine Finger gingen  
Im Boden so, als ob es Wasser wär.

Vom dünnen Quellenwasser aber fingen  
Sich riesige Opale in den Händen  
Und fielen tönend wieder ab in Ringen.

Dann warf er sich mit leichtem Schwung der Lenden—  
Wie nur aus Stolz—der nächsten Klippe zu;  
An ihm sah ich die Macht der Schwere enden.<sup>9)</sup>

しかし突然

第一の、偉大な魔術師の身ぶりが  
私と壁の間にあった  
誇らしげなうなずきと王者の髪が

すると彼の後ろの壁はなく  
深淵や、暗い海や 緑の牧場の  
広い輝きが彼の手の後ろにあった

彼はかがみこんで、深淵をひきあげた  
彼はかがみこんだ、すると彼の指を  
土の中をまるで水の中のよう動いた

浅い泉の水からはしかし巨大な  
オパールが彼の両手にすくいとられ  
音をたてながら指輪となって落ちた

それから彼は誇らしげに軽く腰を動かす  
そして近くの崖に身をおどらせた  
彼には重力の及んでいないのがわかった

フルラーニの至福と陶醉は世界のすべてと諒解し合うところまでは行っていないにしてもその途上にあるとは言えるだろう。ハンス・カールのフルラーニ評は次の科白で終わる。

HANS KARL

zu Helene

Wenn man dem Furlani zuschaut, kommen einem die geschicktesten Clowns vulgär vor. Er ist förmlich schön vor lauter Nonchalance- aber natürlich gehört zu dieser Nonchalance genau das Doppelte wie zu den andern ihrer Anspannung.<sup>10)</sup>

ハンス・カール

ヘレーネに

フルラーニを見ていると、どんな道化でも品がないように思えます。彼の形がきれいなのは全く彼が気を抜いているからなのです。でも勿論このように気を抜くためには緊張に対するよりも2倍ものものが必要なのです。

この後半部分については前段のくり返しととれるだろうが前半の形の美しさに関わる言及ははじめてのものだ。つまり意図を持たずに、気を抜いて芸を行なうことは形の美しさをも伴うということであり、芸が人の眼に触れるものである以上それは有形・無形の形を必ず伴う。であればその究極的な美を求めるのはすべての芸を志すものの当然のあり方として、その際ホーフマンスタールはハンス・カールの口を通して、そのためには意図を持たずに、気を抜いて芸を行なうことが必要であり、更にそれは一般に考えられているよりはるかに多くの精神が、そして精神の緊張が必要だと言っているのである。

シュターニはハンス・カールの姉クレサンスの息子である。彼がはじめて舞台に登場する第1幕第8場以降の第10場、第13場、第16場のハン

ス・カールとの対話の場面は第1幕全体のほぼ3分の1に当たる。雄弁に語るシュターニは勿論彼の本質をこの上なく鮮明に明らかにするが、それに簡潔に反応するハンス・カールに彼の本質はうかがい知ることが出来るというべきだろう。

STANI

—Du verstehst mich: Ich denk über alles nach, und mach mir immer zwei Kategorien. Also die Frauen teile ich in zwei große Kategorien: die Geliebte, und die Frau, die man heiratet. Die Antoinette gehört in die erste Kategorie, sie kann hundertmal die Frau vom Adolf Hechingen sein, für mich ist sie keine Frau, sondern—das andere.

HANS KARL

Das ist ihr Genre, natürlich. Wenn man die Menschen so einteilen will.<sup>11)</sup>

シュターニ

—お分かり頂けるでしょうが私はどんなことでも徹底的に考えます。そしていつも二つのカテゴリーを作ってしまうのです。ですから女性も二つの大きなカテゴリーに分けるのです。恋人と結婚する女とにです。アントワネットは第一のカテゴリーに入ります。何百回アドルフ・ヘヒンゲンの妻であろうと私にとっては彼女は妻になる女ではなくもう一方のタイプです。

ハンス・カール

それが彼女のジャンルだろう、勿論。もし人間をそう分けようとすればだが。

シュターニは物事をすべてこのように見て、このように関わってゆく。彼には迷うということがない。如何なる疑念を抱くこともない。自分に常に絶対に満足しているのである。しかしこのシュターニの言葉を聞いたハンス・カールの反応は留保つきである。けれどもシュターニはこの叔父の態度には全く気がつかない。ハンス・カールは自分とシュターニとの間に横たわる深淵に勿論気付く。活潑に持論を展開する勢に

対するハンス・カールの返事は簡単極まりないものか、無言で——ハンス・カール煙草をすう——とされているだけのものになる。

HANS KARL

Mich interessiert nichts auf der Welt so sehr, als wie man von einer Sache zur andern kommt. Du würdest also nie einen Entschluß vor dich hinschieben?

STANI

Nie, das ist die absolute Schwäche.

HANS KARL

Aber es gibt doch Komplikationen?

STANI

Die negiere ich.

HANS KARL

Beispielsweise sich kreuzende widersprechende Verpflichtungen.

STANI

Von denen hat man die Wahl, welche man lösen will.<sup>12)</sup>

ハンス・カール

私がこの世で一番興味があるのは、一つのことからすぐに次のことへと移ってゆくことなのだ。では君は君の決断を延期することはないのだね。

シュターニ

決してありません。そんなことは絶対的な弱さですよ。

ハンス・カール

でも複雑なことがあるだろう？

シュターニ

そんなものは無視します。

ハンス・カール

例えば矛盾する義務が交錯するときは？

シュターニ

選択をするのですよ。どちらを果たしたいかで。

このシュターニはこの会話のすぐ前で自分は叔父を研究しており、二・三年もすれば研究しつくせると言っているのである。そして自分がアントワネット・ヘヒンゲンに近づくチャンスを得ることが出来たのは間違いなく彼女が自分をハンス・カールに似ているからであるとも言う。更に第12場で登場する男爵ノイホフについてのシュターニの評価の下し方を見よう。ノイホフを送って戻ってきたシュターニは言う。

Nur für eine Sekunde, Onkel Kari, wenn du mir verzeihst. Ich hab müssen dein Urteil über diesen Herrn hören!

HANS KARL

Das deinige scheint ja fix und fertig zu sein.

STANI

Ah, ich find ihn einfach unmöglich. Ich verstehe einfach eine solche Figur nicht. Und dabei ist der Mensch ganz gut geboren!<sup>13)</sup>

ほんのちょっとでいいですから、カーリ叔父さん、よろしかったらこの男についてのご意見をきかせて下さい。

ハンス・カール

君の意見はすっかり決まっているようだね。

シュターニ

ああ、私はあの男はただどうしようもないと思うだけです。あんな人物は全く理解出来ません。それでもあの男は生まれはかなり良いのだというではありませんか。

ハンス・カールはシュターニとは正反対に他人に対する意見を求められると巧みに身をかかわす。

ノイホフに対するシュターニの批判は更に徹底する。

STANI

Weißt du, ich kann mich nicht beruhigen. Erstens die Bassesse, einem Herrn wie dir ins Gesicht zu schmeicheln.

HANS KARL

Das war nicht sehr elegant.

STANI

Zweitens das Affichieren einer weiß Gott wie dicken Freundschaft mit der Helen. Drittens die Spionage, ob du dich für sie interessierst.

HANS KARL

*lächelnd*

Meinst du, er hat ein bißl das Terrain sondieren wollen ?

STANI

Viertens diese maßlos indiskrete Anspielung auf seine künftige Situation. Er hat sich uns ja geradezu als ihren Zukünftigen vorgestellt. Fünftens dieses odiose Perorieren, das es einem unmöglich macht, auch nur einmal die Replik zu geben. Sechstens dieser unmögliche Abgang. Das war ja ein Geburtstagswunsch, ein Leitartikel.<sup>14)</sup>

シュターニ

ねえ、私はどうしても気が安まりません。第一にあなたのような方に面と向かってお追従を言うあの卑劣さ。

ハンス・カール

あれは非常に上品だとは言えない。

シュターニ

第二に何だか知りませんがヘレンととても仲が良いのだと言いつらしたがっていること。第三にあなたがヘレンに関心があるかどうかを探ろうとしている態度。

ハンス・カール

微笑して

彼はそんなことに探りを入れようとしていると思うのかい？

シュターニ

第四に彼の将来の状況を節度なく匂わせるやり方。彼は彼女の未来の夫だと我々の前に現われたのですよ。第五にあの嫌らしいおしゃべり。誰も返事などしたくなくなってしまうですよ。第六にあの考えられない帰り方。あれは誕生日のお祝いのような、決まり文句で

すよ。

自分の知的能力に自信を持ち、分析することがそのまま人の理解につながると思つて疑うことのないシュターニは好んで第一に、第二に……を連発する。ここでもハンス・カールは自分の意見をさしひかえ続ける。わずかに念を押したり、相手に疑問を呈したりするのみである。このシュターニは第15場でヘレンと結婚する決心をする。それも階段を三階まであがってゆく途中でである。そしてその考えは叔父カーリがヘレンに関心がないということに気がついたとき、突然彼の頭に浮かんだことであつた。

HANS KARL

Also, du hast dich entschlossen?

STANI

Ja, ich bin entschlossen.

HANS KARL

So auf eins, zwei!

STANI

Das ist doch genau das, worauf es ankommt. Das imponiert ja den Frauen so enorm an mir. Dadurch eben behalte ich immer die Führung in der Hand.<sup>15)</sup>

ハンス・カール

では決心したのだね?

シュターニ

ええ、きめました。

ハンス・カール

一、二というふうには?

シュターニ

それこそ正に重要なことです。それこそが女性に私に敬意を表させるものなのです。それによってこそ私はいつも主導権をにぎれるのです。

ハンス・カールの „一、二というふうには?“ という問いに含まれる皮肉にシュターニは全く気づかない。それどころか、そこにこそ女性が自分に抱く敬意の理由があるのだという。ハンス・カールは沈黙したまま煙草をのむだけである。シュターニの分類こそが知性のもつ最高のものであるという態度は婚約者である筈のヘレーネに対しても及んでゆく。

STANI

Die Helen ist ein Jahr jünger wie ich.

HANS KARL

Ein Jahr?

STANI

Sie ist ausgezeichnet geboren.

HANS KARL

Man kann nicht besser sein.

STANI

Sie ist elegant.

HANS KARL

Sehr elegant.

STANI

Sie ist reich.

HANS KARL

Und vor allem so hübsch.

STANI

Sie hat Rasse.

HANS KARL

Ohne Vergleich.

STANI

Bitte, vor allem in den zwei Punkten, auf die in der Ehe alles ankommt. Primo: sie kann nicht lügen, secundo: sie hat die besten Manieren von der Welt.

HANS KARL

Sie ist so delizios artig, wie sonst nur alte Frauen sind.

STANI

Sie ist gescheit wie der Tag.

HANS KARL

Wem sagst du das? Ich hab ihre Konversation so gern.

STANI

Und sie wird mich mit der Zeit adrieren.

HANS KARL

*vor sich, unwillkürlich*

Auch das ist möglich.

STANI

Aber nicht möglich. Ganz bestimmt. Bei diesem Genre von Frauen bringt das die Ehe mit sich.<sup>16)</sup>

シュターニ

彼女は私より一歳年下です。

ハンス・カール

一歳か?

シュターニ

彼女は申し分のない生まれです。

ハンス・カール

あれ以上は考えられない。

シュターニ

彼女はエレガントです。

ハンス・カール

とてもエレガントだ。

シュターニ

彼女は金持ちです。

ハンス・カール

そして何よりきれいだ。

シュターニ

彼女は才女です。

ハンス・カール

比類なしのね。

シュターニ

結婚生活で重要な二つの点で特に彼女は並はずれています。第一に彼女は嘘をつくことが出来ません。第二に彼女はこの世で最高のたしなみを備えています。

ハンス・カール

彼女は素敵なたしなみがある、普通は老女しかそうでないのだが。

シュターニ

彼女は曇りのない賢さを持っています。

ハンス・カール

誰に向かって言っているのかね？ 私は彼女の会話が大好きなのだ。

シュターニ

彼女は時と共に私を尊敬するようになるでしょう。

ハンス・カール

思わず、独白する

そんなこともあるかも知れない。

シュターニ

しかしそんなことはない。絶対にありません。こういう女性のジャンルの場合、そういうことは結婚がもたらしてくれるのです。

この二人が共通して好意を抱くヘレーネに対しての評価に於いてさえも二人の間に存在する隔たりは大きい。シュターニが「彼女は金持ちだ」というのに対し叔父は「なによりもきれいだ」と答え、甥の「彼女は曇りのない賢さを持っている」に対しハンス・カールは「私は彼女の会話が好きなのだ」という。特にシュターニが「彼女はこの世で最高のたしなみを備えている」とヘレーネを類型化したのに対し、ハンス・カールが老女にしかなく個性化している点は二人の本質的な違いをはっきりと示すものであるだろう。

クレサンスはハンス・カールの姉であり、フロイデンベルク伯爵夫人である。息子シュターニの持つ行動力と知性は彼女から受け継いだものであろうとは十分推測出来るが勿論クレサンスは人を推し測るのにカテゴリーなどを援用はしない。ハンス・カールに対する発言は例えば以下のようなものである。

Sei Er gut, Kari, hab Er das nicht mehr, dieses Unleidliche,  
Sprunghafte, Entschlußlose, .....

.....  
aber er hat natürlich, wie ich auch, deine  
Schwächen heraus; er adoriert den Entschluß, die Kraft, das  
Definitive, er haßt den Wiegel-Wagel, darin ist er wie ich!<sup>17)</sup>

クレサンス

怒らないでね, カーリ, その我慢のならないところ, 移り気と, 決  
断力のなさはもうやめにしてよ. ....

.....  
でも彼 (シュターニ) は勿論私と同じようにあなたの  
欠点をわかっているのよ。彼は決断を崇拜しているのよ, 力を, 確  
定的なことを。そして不決断を嫌っているのよ。その点で私と同じ  
よ。

クレサンスは理論など作り上げず, 状況が必要とするときには目標目  
がけて突き進むのである。同じ第3場のすぐ後の場面を見よう。話題は  
ノイホフとヘレーネが結婚するという話である。

CRESCENCE

*tritt an den Tisch*

Kari, wenn dir nur ein ganz kleiner Gefallen damit geschieht,  
so hintertreib ich diese Geschichte.

HANS KARL

Was für eine Geschichte?

CRESCENCE

Die, von der wir sprechen: Helen-Neuhoff. Ich hintertreib sie  
von heut auf morgen.

HANS KARL

Was?

CRESCENCE

Ich nehm Gift darauf, daß sie heute noch genau so verliebt in

dich ist wie vor sechs Jahren,<sup>18)</sup>

クレサンス

テーブルに歩みよって

カーリ、少しでもあなたの役に立つのならこの話を私は妨害するわ。

ハンス・カール

どの話？

クレサンス

今の話よ。ヘレンとノイホフの。私、この話を今日から明日になるうちに妨害するわ。

ハンス・カール

何ですって？

クレサンス

彼女が今日のうちに6年前と同じようにあなたに夢中になるように絶対にしてあげるわ。

彼女は自分の立てた目標は必ず達成されるものと信じて疑わない。なぜなら、

HANS KARL

Meine Liebe, allen Respekt vor deiner energischen Art, aber so einfach sind doch gottlob die Menschen nicht.

CRESCENCE

Mein Lieber, die Menschen sind gottlob sehr einfach, wenn man sie einfach nimmt.<sup>19)</sup>

ハンス・カール

姉さん、あなたのエネルギッシュなやり方には大いに敬意を表しますが、人間はそんなに簡単なものではないんですよ。

クレサンス

カーリ、人間はそんなに簡単なものなのよ、簡単に考えればね。

クレサンスは自分を疑うことが殆どない。仮に自分の予期した結末になることがなくともそれは自分を疑うことには全くならず彼女は従来にも増して行動力を持ち断定を行ないつづけるのである。

アントワネットはヘヒンゲン夫人である。決断性からは最も遠ざかっているように見える。第2幕第9場の科白である。

ANTOINETTE

Ich hab einmal nur das, was ich im Moment hab, und was ich nicht hab, will ich vergessen. Ich leb nicht in der Vergangenheit, dazu bin ich nicht alt genug.<sup>20)</sup>

アントワネット

私はこの瞬間に持っているものだけを持っているの。私が持っていないものは忘れてしまいたい。私は過去になんか生きていません。そうする程老けこんでいません。

と言うその直後に、

ANTOINETTE

Diese paar Tage damals in der Grünleiten sind das einzige wirklich Schöne in meinem ganzen Leben. Die laß ich nicht—Die Erinnerung daran laß ich mir nicht heruntersetzen.<sup>21)</sup>

アントワネット

グリューンライテンでのあの数日は私の生涯で唯一の美しいものです。これを私は手離しません。この思い出を私は悪くは言わせません。

と言ってまた、

ANTOINETTE

Ja, wir leben halt nicht nur wie die gewissen Fliegen vom

Morgen bis zur Nacht. Wir sind halt am nächsten Tag auch noch da.<sup>22)</sup>

アントワネット

そうね、私達はかげろうなどのように朝に生れて夜に死ぬという風には生きていないわ。私達は次の日にも生きている。

と続けるが、次の第10場では再び、

ANTOINETTE

Sag Er mir sehr was Liebes: nur für den Moment. Der Moment ist ja alles. Ich kann nur im Moment leben.<sup>23)</sup>

アントワネット

なにかやさしいことを言って下さい。この瞬間だけでも。瞬間はすべてなの。私は瞬間のうちにしか生きられないの。

という。一瞬前の自分の否定の連続が続く。であれば現在の夫との結婚についてハンス・カールに、

für den du immer ganz schön bist, nicht nur heut und morgen, auch später, viel später, für den seine Augen der Schleier, den die Jahre, oder was kommen kann, über dein Gesicht werfen—für seine Augen ist das nicht da, du bist immer die du bist, die Schönste, die Liebste, die Eine, die Einzige.<sup>24)</sup>

その男にとっては君はいつもとても美しい、ただ今日や明日だけでなく、後になっても、ずっと後になっても、その男にとって彼の眼は年月などが君の顔にかけるヴェールなのだ、彼の眼にとってそんなものは存在しない。君はいつも君そのもの、最も美しく、最も愛らしく、唯一の、一人だけの女性なのだ。

と言われても、

ANTOINETTE

So hat er mich nicht gewählt. Geheiratet hat er mich halt. Von dem andern weiß ich nichts.<sup>25)</sup>

アントワネット

そんな風にあの人は私を選んだのではありません。結婚したの、彼は私と。それ以外のことについては私には何も分らない。

といい更に、

Ich laß mir von dir den Ado nicht einreden. Ich mag seine Händ nicht. Sein Gesicht nicht. Seine Ohren nicht.

*Sehr leise*

Deine Hände hab ich lieb.<sup>26)</sup>

私はあなたにアドを説得して欲しくはない。私は彼の手が嫌い。彼の顔も嫌い。彼の耳も嫌い。

とても低く

あなたの手は好き。

と続けるのも当然の推移ということになるう。

ノイホフは男爵である。地方出身者であることで排他的なウィーンの社交界の人間に表面的な好意以上のものを示されることはないが、彼の方は非常に鈍感さでそれに反応しつつウィーンの社会に同化しようとしヘレーネとの結婚を考える。

NEUHOFF

Vielleicht könnte man seine Frau werden—das war es, was Ihre Lippen sagen wollten, Helene!

HELENE

Lesen Sie von den Lippen wie die Taubstummen ?

NEUHOFF

*einen Schritt näher*

Sie werden mich heiraten, weil Sie meinen Willen spüren in einer willenlosen Welt.

HELENE

*vor sich*

Muß man? Ist es ein Gebot, dem eine Frau sich fügen muß: wenn sie gewählt und gewollt wird?

NEUHOFF

Es gibt Wünsche, die nicht weither sind. Die darf man unter seine schönen rassigen Füße treten. Der meine ist weither. Er ist gewandert um die halbe Welt. Hier fand er sein Ziel.<sup>27)</sup>

ノイホフ

ひょっとしたら彼の妻になるかも知れない。——これがあなたの唇が言おうとされていたことです。ヘレーネ!

ヘレーネ

あなたは聾啞者のように読唇術がお出来になりますの?

ノイホフ

一歩近づいて

あなたは私と結婚されるのです、あなたは意志のない世界で私の意志を感じとられたからです。

ヘレーネ

独白

しなければいけないの? それは女が従わなければいけない掟なのかしら、もし選ばれて、求められたら?

ノイホフ

遠くからやってくるのではない願望があります。そんなものは美しい、立派な足で踏みつけてもかまいません。私の願望は遠くから来たものです。この願望は世界の半分を歩いて来ました。ここでその目的を見出したのです。

ノイホフは情況に身をまかせようとは一切しない。人生が彼に素晴らしいものをもたらしてくれるなどとは一切考えない。すべて自分の期待するものは自分の精神を行動させることによってしか自分のものにする

ことは出来ないと十分に知っているのである。このノイホフが第3幕では相手をアントワネットに変えて同じ演技を行なう。

NEUHOFF

Sie haben noch keinem gehört, Sie warten noch immer.

ANTOINETTE

*mit einem kleinen nervösen Lachen*

Nicht auf Sie!

NEUHOFF

Ja, genau auf mich, das heißt auf den Mann, den Sie noch nicht kennen, auf den wirklichen Mann, auf Ritterlichkeit, auf Güte, die in der Kraft wurzelt.<sup>28)</sup>

ノイホフ

あなたはまだ誰のものでもない。あなたは相変らず待っていていらっしゃる。

アントワネット

一寸神経質な笑いを浮かべて

あなたをではありません!

ノイホフ

そうなのです。まさに私をなのです。それはあなたのまだ知らない男、本当の男、騎士のような男、力に根ざした善良な男を待っておいでなのです。

彼の精神は常に言葉の上での行動を伴う。その行動には全く反省はなく、シュターニを思わせるが、若さを伴わないだけに一層その強烈さは人目をひく。当然ハンス・カールに対する批判は痛烈極まりないものとなる。第2幕第2場での“有名な男”との対話を聞いてみることにする。先ず彼は、

NEUHOFF

Geist und diese Menschen! Das Leben—und diese Menschen!

Alle diese Menschen, die Ihnen hier begegnen, existieren ja in Wirklichkeit gar nicht mehr. Das sind ja alles nur mehr Schatten. Niemand, der sich in diesen Salons bewegt, gehört zu der wirklichen Welt, in der die geistigen Krisen des Jahrhunderts sich entscheiden.<sup>29)</sup>

ノイホフ

精神とこの連中！ 生活とこの連中！ あなたがここでお会いになる連中は皆現実にはもはや全く存在していないのです。皆影といってもいい連中ばかりです。こんなサロンを動きまわっている誰もがこの世紀の精神の危機が決定される現実の世界には属してなどいないのです。

と完全にこの社会を見下した発言をするがこれは十分に客観性を持つだろう。ドラマの一つの科白として前後のそれと全く違和感なしに聞こえると同時にホーフマンスタールの詩人としての冷静な眼をも感ずることが出来るかも知れない。ハンス・カール評がつづく。

NEUHOFF

Nicht allzusehr, aber hinlänglich, um ihn Ihnen in zwei Worten erschöpfend zu charakterisieren: absolutes, anmaßendes Nichts.<sup>30)</sup>

ノイホフ

それ程親しいわけではありません。けれどもあなたに彼の特徴を申し上げるには十分です。あの男は絶対的な無、思い上った無です。

これは先程の社交界に対する評言よりは感情的なだけ客観性を欠くが同時にハンス・カールとノイホフの精神のあり方の差異を実証するものではあるだろう。

有名な男 (Ein berühmter Mann) と開幕前の人物紹介が行なわれる人物が固有名詞を付せられていないのは勿論類型化を目的としているのだが、更に後に触れるように似た姓を持つ人物とのとり違えが生ずる際一

定の姓を劇の最初に与えておくよりはとり違えの効果が大きいであろうことを予め詩人は計算に入れていたのもであろう。この男は虚栄心以外の何ものでもない。第2幕第2場でノイホフと同時に彼は戸口に現われる。

#### DER BERÜHMTE MANN

Wenn Sie vielleicht die Güte haben, der Dame zuerst von mir zu sprechen, ihr, da sie eine Fremde ist, meine Bedeutung, meinen Rang in der wissenschaftlichen Welt und in der Gesellschaft klarzulegen—so würde ich mich dann sofort nachher durch den Grafen Altenwyl ihr vorstellen lassen.<sup>31)</sup>

#### 有名な男

もしできましたら、あの女性に前もって私のことを話しておいて頂けませんか。見知らぬ方ですから学界や社交界での私の意味、私の地位を知らせておいて下さい。そのあとですぐにアルテンヴェール伯爵から彼女に紹介してもらいます。

つまり自分の意図を相手に覺られぬようにあたかも偶然であるかのように見せかけたいわけである。その理由づけを彼は以下のように続ける。

Es handelt sich für einen Gelehrten meines Ranges nicht darum, seine Bekanntschaften zu vermehren, sondern in der richtigen Weise gekannt und aufgenommen zu werden.<sup>32)</sup>

私のような地位の学者にとって大切なことは知人の数をふやすことではなく、正しいやり方で紹介され、受けとってもらふことなのです。

このように完全に準備をととのえていたにも拘らずそこにメーレンベルク伯爵令嬢エディーネが入ってくる。このエディーネはすぐ前の第1場で“精神的”、“精神”を既に連発しているのである。

EDINE  
zu Altenwyl

Das Geistige gibt uns Frauen doch viel mehr Halt! Das geht der Antoinette zum Beispiel ganz ab. Ich sag ihr immer: sie soll ihren Geist kultivieren, das bringt einen auf andere Gedanken.<sup>33)</sup>

エディーネ  
アルテンヴェールに

私たち女性には精神的なものはずっと支えになります。例えばアントワネットにはこれが全くありません。私はいつも彼女に言うのです。精神を育てなさい。そうすれば別の考えをするようになるのよ。

„精神“, „教養“ (勿論当人が考えた程度での) を好む女性がそれを売物にする人物の前に出現したのだから話はスムーズに展開する筈だが、エディーネが相手を姓が似ている他の人物ととり違えをしてしまうという事件が起きる。エディーネが最近感激した本として挙げたものがこの„有名な男“の著書ではなく、その同僚の彼の言に従えばサロン言語学者の手になるものであったのである。かくして„有名な男“の目論見は苦い報復を受けて終るのである。

„気むずかしい男“, ハンス・カール・ビュール伯爵に話を移さなければならぬ。そしてそれと共にヘレーネにも。ハンス・カールは39歳。独身であり、ウィーンの大きな邸宅に姉母子、侍従二人、秘書一人と共に住む。ドラマの時代は第一次大戦終結後間もない頃。彼の気むずかしさとは如何なるものか。何よりもまず人に自分をつかませないことだが、それは自らが人に自分をつかませまいとしているのではなく、人が彼をつかみにくい人間だという意味である。例えば新入りのヴィンツェンツという侍従は長くこの家に勤めている先輩のルーカスの引退後はこの家を取り仕切るつもりでいて、更に主人カールをむしろ御し易い人物とさえ思いこんで自分の将来像を思い描く。にも拘らず彼はすぐにハンス・カールによって解雇されてしまうことになるのである。つまり相手はヴィンツェンツの計算出来る人物ではなかったということになる。

甥のシュターニも同様である。彼は叔父を尊敬しているだけではなく研究をしているのだ。そしてもう2～3年でその研究を終えるという。にも拘らず彼が突然ではあったが婚約した相手ヘレーネと結婚するのは当のハンス・カールなのである。詩人の極く若い頃の詩 „世界の秘密“ (Weltgeheimnis) の冒頭には次のようにある。

Der tiefe Brunnen weiß es wohl,  
Einst waren alle tief und stumm,  
Und alle wußten drum.

Wie Zauberworte, nachgelallt  
Und nicht begriffen in den Grund,  
So geht es jetzt von Mund zu Mund.<sup>34)</sup>

深い泉はそれを知っている  
昔は皆が深く、黙っていた  
そして皆がそれを知っていた

魔法の言葉のようになぞられ  
深くは理解されずに  
今は口から口へと伝えられる

特にその第二節を想起せざるを得ない。第2幕第1場ではじめて舞台に登場するヘレーネはそれに反して最初の台詞が既に次のようなものである。

Wir haben alle Ursache, wir jüngeren Menschen, wenn uns  
vor etwas auf der Welt grausen muß, so davor: daß es etwas  
gibt wie Konversation: Worte, die alles Wirkliche verflachen  
und im Geschwätz beruhigen.<sup>35)</sup>

私たち若い人間にはこの世界で何かにぞっとするときには理由があるのです。会話などはその一つです。言葉がすべての現実を平板化

し、おしゃべりの形で安全にしてしまうのです。

つまりヴィンツェンツ、シュターニは先の詩の第二節を全く意識せずに只行動しているだけだがヘレーネは第二節を完全に意識した上で第一節の存在をはっきりと意識はしないまでも感じているのである。

ハンス・カールは戦争に行った。そして以下のような確信を抱く。

Das ist eine heilige Wahrheit, die weiß ich—ich muß sie immer schon gewußt haben, aber draußen ist sie erst ganz deutlich für mich geworden: es gibt einen Zufall, der macht scheinbar alles mit uns, wie er will—aber mitten in dem Hierhin- und Dorthingeworfenwerden und der Stumpfheit und Todesangst, da spüren wir und wissen es auch, es gibt halt auch eine Notwendigkeit, die wählt uns von Augenblick zu Augenblick, die geht ganz leise, ganz dicht am Herzen vorbei und doch so schneidend scharf wie ein Schwert. Ohne die wäre da draußen kein Leben mehr gewesen, sondern nur ein tierisches Dahintaumeln. Und die gleiche Notwendigkeit gibts halt auch zwischen Männern und Frauen—wo die ist, da ist ein Zueinander-müssen und Verzeihung und Versöhnung und Beieinanderbleiben. Und da dürfen Kinder sein, und da ist eine Ehe und ein Heiligtum, trotz allem und allem.—<sup>36)</sup>

これは聖なる真実だ。私はよく知っている。私はこれをもうずっと知っていた筈なのだが、戦争に行つてはじめて私にとってはっきりしたものになった。偶然というものがあるのだ、これが我々にしたい放題のことをするらしい。だがあつちへ、こつちへ放り出されては、感覚も鈍くなり、死の不安にも苛まれると、我々はそれを感じ、知るようになるのだ、必然というものがあるの、それが一瞬また一瞬と我々を選び出す。それはごく静かに我々の心のそばを通つてゆく、けれども刃のように鋭く我々の心を刺すのである。これがなかつたら戦場で我々の生活はなかつたらう、ただ動物のようによろめきながら日々をおくつていただらう。同じ必然が男と女の間

にもある。これがあるところに二人は向き合っていないなくてはならず、宥和と和解が生まれ共同生活が生まれる。そこには子供がいてもよいだろう。これが結婚であり神聖なものだ、何があろうとも

---

ハンス・カールが戦争以来人間を一瞬ごとに選び出す必然性を知ったのだとしたら彼は戦争前の彼とは同一ではない筈である。にも拘らず彼に不決断、むら気などが相変らずあるのは何故なのか。そのような態度をとらせる背景がなくてはならないだろう。続く場面でのヘレーネとの対話でそれを認めることが出来るだろう。ハンス・カールは戦争中砲弾で塹壕に埋められるという経験をする。

#### HANS KARL

Das war nur ein Moment, dreißig Sekunden sollen es gewesen sein, aber nach innen hat das ein anderes Maß. Für mich wars eine ganze Lebenszeit, die ich gelebt hab, und in diesem Stück Leben, da waren Sie meine Frau.<sup>37)</sup>

#### ハンス・カール

それはほんの一瞬のことでした。30秒ぐらいだったということです。でも内側に対しては別の尺度があったのです。私にとっては私の生きた生涯の全てでした。そしてこの生涯の中であなたは私の妻だったのです。

この日以来彼は新しいものはこの世にはない。すべてはとっくにどこかで出来上っている。それが突然はじめて目に見えるものになるのだという考えを持つようになる。

Daß alles schon längst irgendwo fertig dasteht und nur auf einmal erst sichtbar wird. Weißt du, wie im Hohenbühler Teich, wenn man im Herbst das Wasser abgelassen hat, auf einmal die Karpfen und die Schweife von den steinernen Tritonen da waren die man früher kaum gesehen hat?<sup>38)</sup>

ものごとはすべてどこかでとっくに出来上っていて、ただ突然目に見えるようになるだけだということなのです。例えばあのホーエンビュールの池でも秋に水を抜くと突然それまで見たことのない鯉や石の海神像の尾など見えてくるのです。

そしてまたこの日以来彼は詩人がかつて „大魔術の夢“ で歌ったように、

Er fühlte traumhaft aller Menschen Los,  
So wie er seine eignen Glieder fühlte.  
Ihm war nichts nah und fern, nichts klein und groß.<sup>39)</sup>

彼はすべての人間の運命を夢のように  
まるで彼自身の四肢のように感じた  
彼には近いも遠いも、大きいも小さいもなかった

それ以来彼は純粋な真実を破壊するものとして言葉に苦しむのである。

#### HANS KARL

Durchs Reden kommt ja alles auf der Welt zustande. Allerdings, es ist ein bißl lächerlich, wenn man sich einbildet, durch wohlgesetzte Wörter eine weiß Gott wie große Wirkung auszuüben, in einem Leben, wo doch schließlich alles auf das Letzte, Unaussprechliche ankommt. Das Reden basiert auf einer indezenten Selbstüberschätzung.<sup>40)</sup>

#### ハンス・カール

たしかにこの世のすべては話すことによって行なわれます。でも選ばれた単語を使えば大いなる効果が挙がると想像するのは一寸滑稽です。人生では結局、究極的なもの、言葉には出せないものが大切なのですから。雄弁はいやらしい自己の過大評価に基づいているのです。

時間も、本質的にはその一部である空間もないところ、つまり対象のないところ、他のものとして出会う何ものもないところ、そこでは時間と言葉とは一体をなすのである。存在するものに言葉を与える人は本来一つであるものを分けてしまっているのである。

第3幕でヘレーネはコートを身にまといカールの後を追う決心をする。この夜の中への歩みは彼女を社会から遠ざけてしまうであろう。しかし彼女はハンス・カールの妻として彼の後を追うのである。しかしハンス・カールは戻ってくる。彼女が家を去る前に。両者は玄関の間で出会う。再び長い対話が行なわれる。ここではヘレーネが主導権を握る。常にきっぱりと確固たる口調で。それに対してハンス・カールは、当惑して、曖昧に、躊躇して、彼女の口調にたじたじとなって答えるのである。勿論彼女は彼に何ものをも省いてやることは出来ない。自分の心を自分自身にも、彼女にもさらけ出すことが出来ない。彼女に語りながら彼は自分が帰ってきたのは彼女に完全にとらわれない状態を戻してやるためだったことを確信する。

HANS KARL

Sie wären mir, Helen—? Sie hätten mich gesucht? Ohne zu denken, ob—?

HELENE

Ja, ohne an irgend etwas sonst zu denken. Ich geh dir nach—  
Ich will, daß du mich—

HANS KARL

*mit unsicherer Stimme*

Sie, du, du willst?

*Für sich*

Da sind wieder diese unmöglichen Tränen!

*Zu ihr*

Ich hör Sie schlecht. Sie sprechen so leise.

HELENE

Sie hören mich ganz gut. Und da sind auch Tränen—aber die helfen mir sogar eher, um das zu sagen—

HANS KARL

Du—Sie haben etwas gesagt?

HELENE

Dein Wille, dein Selbst; versteh mich. Er hat dich umgedreht, wie du allein warst, und dich zu mir zurückgeführt. Und jetzt—

HANS KARL

Jetzt?

HELENE

Jetzt weiß ich zwar nicht, ob du jemand wahrhaft liebhaben kannst—aber ich bin in dich verliebt, und ich will—aber das ist doch eine Enormität, daß Sie mich das sagen lassen!

HANS KARL

*zitternd*

Sie wollen von mir—

HELENE

*mit keinem festeren Ton als er*

Von deinem Leben, von deiner Seele, von allem—meinen Teil!<sup>(41)</sup>

ハンス・カール

あなたが私を、ヘレン？ 私を探そうとしたと？ どこだろうと考えずに？

ヘレーネ

ええ、ほかのことは全く考えずに。私はあなたを追って、私はあなたが私を……

ハンス・カール

覚束ない声で

あなたは、君は、君は？

独白

またこんな涙など考えられない！

彼女に

あなたの声がよく聞こえません。低い声で話しておいでだから。

ヘレーネ

あなたはよく聞こえておいでです。また涙が出てしまう。でもこれを言うのには役に立ちます。

ハンス・カール

君は、あなたは何か言われました？

ヘレーネ

あなたの意志、あなた自身です。分って。それがひとりになったあなたを連れもどしたの。あなたを私のところへ連れもどしたの、そして今——

ハンス・カール

今？

ヘレーネ

今私にはあなたが誰かを本当に愛せるかどうかは分かりません。でも私はあなたが好きです。私は——でも私にこんなことを言わせるのはちょっとひどすぎませんか？

ハンス・カール

震えながら

あなたは私の——

ヘレーネ

彼と同じしっかりした口調ではなく

あなたの生活、あなたの生活、すべて——私のものにしたい。

訳文ではうまく出すことの出来ない Sie と du の用法が何と二人の感情と真実を言い得ていることだろう。

ホーフマンスタールは彼の初期を、放棄することによってではなく、より高い平面でそこに回帰することによって克服したのである。喜劇 „気むずかしい男“ はありふれたウィーンのドラマとは関わりを持たない。ここでは „性格“ が描写され、様々な外面的効果のためにそれらは互いに結びつけられているのである。彼の最も成功したこの喜劇は他の作品と同様 „世界の秘密“ を目標としているのである。 „結婚“ はそのための一つの表現であるにすぎない。そしてより高いもの、語り得ないものの存在を示唆するのである。

### 【テキスト】

Hugo von Hofmannsthal: Gesammelte Werke Lustspiele II 1965

但し次の版によって訂正を行った個所がある

Hugo von Hofmannsthal Sämtliche Werke XII 1993 Kritische Ausgabe

### 【文献】

W. Emrich: H. v. Hofmannsthals Lustspiel ›Der Schwierige‹ 1955/6

E. Kobel: Hugo von Hofmannsthal 1970

F. N. Mennemeier: Hofmannsthal · Der Schwierige 1975

E. Staiger: H. v. Hofmannsthal ›Der Schwierige‹ 1941

F. Schröder: Die Gestalt des Verfühlers im Drama H. v. Hofmannsthals 1988

D. Iehl: Reprise et modification. Aspects de la temporalité dans L'Homme difficile de H. v. Hofmannsthal 1998

Th. W. Adorno: Prismen 1955

H. Broch: Hofmannsthal u. seine Zeit 1947

F. Fellmann: Phänomenologie u. Expressionismus 1982

### 【注】

1) 川村二郎: 年譜—ホーフマンスタール 1997

2) H. v. Hofmannsthal Gesammelte Werke Lustspiele II (以下 L. II と略す) 1965 S.212

3) *ibid.*, S.219

4) *ibid.*

5) *ibid.*, S.220

6) *ibid.*

7) *ibid.*, S.221

8) *ibid.*

9) H. v. Hofmannsthal Gesammelte Werke Gedichte und Lyrische Dramen (以下 G. と略す) 1970 S.20

10) H. v. H. L. II S.222

11) *ibid.*, S.182

12) *ibid.*, S.183

13) *ibid.*, S.196

14) *ibid.*, S.198

15) *ibid.*, S.205 f.

- 16) *ibid.*, S.207 f.
- 17) *ibid.*, S.152
- 18) *ibid.*, S.157 f.
- 19) *ibid.*, S.158
- 20) *ibid.*, S.240
- 21) *ibid.*, S.241
- 22) *ibid.*, S.243
- 23) *ibid.*, S.249
- 24) *ibid.*, S.244 f.
- 25) *ibid.*, S.245
- 26) *ibid.*, S.247
- 27) *ibid.*, S.253
- 28) *ibid.*, S.280
- 29) *ibid.*, S.230
- 30) *ibid.*
- 31) *ibid.*, S.224
- 32) *ibid.*, S.225
- 33) *ibid.*, S.220
- 34) H. v. H. G. S.15
- 35) H. v. H. L. II S.216
- 36) *ibid.*, S.245
- 37) *ibid.*, S.263
- 38) *ibid.*, S.211
- 39) H. v. H. G. S.21
- 40) H. v. H. L. II S.258
- 41) *ibid.*, S.298 f.